

宇都宮共和大学 2025 年度自己点検・評価報告書

(各委員会 P D C A 報告)

- シティライフ学部 p. 1
- 子ども生活学部 p. 13
- 大学運営・財務 p. 24

2026年5月
内部質保証会議

宇都宮共和大学 シティライフ学部

2025 年度自己点検・評価報告書

(各委員会P D C A報告)

• 自己点検・評価推進部会	p. 2
• 教務委員会	p. 3
• 教職課程運営委員会	p. 4
大学合同教職課程運営委員会	p. 5
• 入学試験・広報委員会	p. 6
• 学生委員会	p. 7
• キャンパス・ハラスメント防止・啓発委員会	p. 8
• 就職委員会	p. 9
• 国際交流センター	p. 10
• 研究・図書委員会	p. 11
• 都市経済研究センター	p. 12

1. 2025年度 シティライフ学部自己点検・評価推進部会 PDCA報告

I 基本方針

- ・内部質保証会議、自己点検・評価委員会、自己点検・評価推進部会等の自己点検評価組織の円滑な運営を目指す。
- ・教育の質保証に向けて各委員会活動の活性化を図るため、組織的な支援をする。
- ・教員の配置や教員組織の適切性について定期的に点検・評価する仕組みについて検討し、実施する。
- ・教職員の質の向上をめざし、教育方法の改善に関する取り組みを活性化する。

P	D	C	A
II 施策 ① 自己点検・評価の推進および大学基準協会第4期認証評価への対応 ・「中期目標及び中期計画の進行管理表」「内部質保証に関するチェックリスト」を用いた点検・評価等の実施 ・その他自己点検・評価に関すること	・(i)「中期目標及び中期計画の進行管理表」「内部質保証に関するチェックリスト」により点検・評価を実施した。(ii)5月：ゼミにて学生からの意見収集を実施した(大学基準協会より依頼)。(iii)8月：実地調査前の回答および根拠資料を取りまとめた。(iv)12月：全学的な「アセスメント・ポリシー」を策定した。規程の見直しを行った。 ・専任教員募集において年齢構成等を考慮し採用選考を行うことを確認した。	・(i)チェックリスト等に基づいて点検・評価が漏れなく実施された。(ii)回収率が高く、周知および回答促進は適切だった。(iii)回答及び根拠資料の作成は適切に行われた。(iv)学修成果の評価指標が明確化された。一方で、改善に向けた実施体制の整備が課題である。 ・若手が採用された。年齢構成が改善された。	(i)次年度も実施。 (iii)「大学評価結果」「点検・評価報告書」を5月1日までに公表。 (iv)HPにて公表。 アセスメント・ポリシーに従って体制を整備。
② PDCA 報告会の実施(中間・期末) ・各委員会の施策をPDCAサイクルによって検証する。	・10/20:PDCA中間報告会実施 ・3/30:PDCA年度末報告会実施	内部質保証会議の指示により委員会等が改善に取り組んだことを確認した。	次年度も2回実施。
③ 授業改善アンケートの実施と授業改善の推進 ・授業改善アンケートの実施(春・秋) ・「学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組」の作成・公表(FD活動報告書) ・2025全国学生調査の実施(文部科学省)	・各学期に授業改善アンケートを実施した。回答率は春89.9%、秋87.9%であった。アンケート結果を本学HPに公表した。 ・「教員の取組」を取りまとめ「FD活動報告書」に収録した。「FD活動報告書」を本学WEBで公開した。 ・11月及び12月に実施	・秋学期は6年間において8項目で最高評価だった。結果は本学HPにて適切に公表された。 ・「教員の取組」の取りまとめは適切だった。「FD活動報告書」は本学WEBにて適切に公表された。 ・回答率が高く、適切に実施された。	・回収率の向上。 ・次年度も引き続き実施。 ・次年度も実施。
④ 教員の相互授業参観の実施 ・幅広い相互参観の推進(春秋学期の参観期間設定) ・「教員相互参観報告書」の作成・公表(FD活動報告書)	・相互参観実績：春学期6件、秋学期10件 ・「教員相互参観報告書」を取りまとめ「FD活動報告書」に収録した。	・昨年度(2件)より春学期参観者が増加した。 ・「教員相互参観報告書」の取りまとめは適切だった。	・次年度も幅広い相互参観を推奨。 ・次年度も実施。
⑤ FD・SD研修会の実施(教職員の質向上を図る) ・「シラバスチェックリストによる点検」等の実施	・FD・SD研修9月「生成AIの仕組みと教育への活用(両学部合同)」。FD研修2月「シラバスチェックリストによる点検」。SD研修7月及び2月。	・合同実施により、教育改善に対する大学全体としての一体感が醸成された。	・必要に応じた内容の研修を実施。

2. 2025年度 シティライフ学部教務委員会 PDCA報告

I 基本方針

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下を適切に実施する。

- ① 教育課程を体系的に編成し、適切に実施する。
- ② 教育を効果的に行い、学修を活性化するための措置を講ずる。
- ③ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行う。
- ④ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価する。

P	D	C	A
II 施策			
① 教育課程の適切な運営および効果的な教育の実施 ・カリキュラム2023および2019の適切な運営 ・ChromebookおよびGoogle Classroomを活用したアクティブラーニングの推進 ・その他（オリエンテーション、履修相談など）	・カリキュラムに沿った時間割を作成し運営を行われた。 ・全科目でClassroomを作成し、各講義での活用を推進した。 ・新年度オリエンテーション、履修相談、秋学期ガイダンスなどを全学年を対象に実施した。	・カリキュラムの見直しの準備を開始する必要がある。 ・適切に実施されている。 ・適切に実施されている。	・カリキュラム2027に向けた具体的な検討を開始する。
② コース修了認定制度（C2019）・専門分野修得認定制度（C2023）の運用 ・両制度の対象学生への適切な周知 ・新制度の具体的な実施方法の検討	・周知は適切に行われ、1年生全員が専門分野の登録を行った。 ・成績通知書に登録した分野以外のGPTも併記することとした。	・適切に実施されている。	・完成年度に分野登録の効果（学習・就職意識など）について調査する。
③ 学位授与方針に関連した成績評価基準の検証 ・成績評価基準のシラバスへの記載と教員による自己評価の実施	・シラバスチェックにより成績評価基準の適切性を確認した。	・成績評価基準はシラバスに適切に記載されていることが確認された。	・引き続きシラバスチェックにより、評価基準の質的向上を図る。
④ 学修成果の適切な評価 ・「卒業研究」における卒業研究発表会の実施 ・学修成果の把握および評価方法の検討 ・適切な学修フィードバックの推進	・1月21日に発表会を実施。 ・GPA、専門分野別GPT等により学習成果を把握している。 ・シラバスにフィードバックの方法の記載を求めた。	・計画通り実施された。 ・フィードバック方法については、科目間のばらつきが見られる。	・学修成果の把握については先行事例（子ども生活学部のポートフォリオ等）を調査する。 ・学生へのフィードバック方法について教員間で共有を図る。
⑤ 保護者との適切な連携 ・個人別保護者教育懇談の実施	・7、9月に保護者懇談を実施し20人の保護者と面談した。	・計画通り実施された。	・必要な保護者との面談機会が確保されるように適切な周知を継続する。

3—1. 2025年度 シティライフ学部教職課程運営委員会 PDCA報告

I 基本方針
 ・本学の教員養成の理念に沿った教職課程の適切な運営を行うとともに、昨今の文科省の方針・動向を注視しながら、教育現場の課題に対応した教職指導の一層の充実に努める。

P	D	C	A
<p>II 施策</p> <p>①全学教員養成基本方針を踏まえた教職課程の適切な運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の教育理念を踏まえた教員養成基本方針の具現化策の検討 ・シティライフ学部で養成する教員像に沿った教職課程の運営 ・教職課程の自己点検・評価 (PDCA) の検証 ・子ども生活学部、宇短大との連絡・調整 ・大学合同教職課程運営委員会の開催 ・全国私立大学教職課程協会関係 (自己点検・評価報告書の作成・公表) ・教職課程の広報 (オープンキャンパス等) 	<p>4.1 委員会にて基本方針・施策 (案) 策定</p> <p>5.12 同上 教授会にて承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学教職課程運営委員会の開催 ・教職課程運営方針、教育実習等について適宜協議を行い、共通理解の下に取り組んでいる。 ・教職課程履修者の現況等について情報交換 ・大学合同委員会 (教職課程の全学的組織) を開催 (1/16) ～自己点検・評価の確認等 ・全私教協「自己点検・評価報告書」公表 (3月) ・オープンキャンパスでの広報 ・第3回OC (8/23) ～資格取得に係る模擬授業及び「卒業生を招いて」の対談実施 ・リーフレットの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職課程再課程認定」内容との整合性は適切に図られている。 (2019年度～ 新課程スタート) ・教員免許取得のための教育と支援体制の充実に取り組んでいる。 ・自己点検・評価を適切に行い、教職課程の質の保証・向上に取り組んでいる。 ・教職課程自己点検・評価報告書は、本学HP「情報公開」にて適切に公表されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度の方針等の検討、確認を行う。 ・次年度以降の教職課程授業科目担当教員についての、文科省に対する審査事務を適切に進める。 ・今後とも自己点検・評価を適切に行い、教職課程の質の保証・向上に努める。 ・様々な機会を活用して本学教職課程の広報に努める。
<p>②教員免許状取得指導内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年—教職ガイダンス (履修希望者) の充実 ・ポートフォリオ (履修カルテ) の作成指導 ・2学年—履修カルテの活用、教職現場学習の実施、教職ボランティアへの参加促進 ・3学年—実践的指導能力の育成、観察実習・介護等体験の実施、実習施設との連携 ・4学年—教育実習 (5/26～6/13) ・履修カルテを踏まえた教職実践演習の実施、実習校 (宇短大附属中学校) との連携強化 ・教員採用試験に向けた支援と就職相談 <p>③教職課程指導室の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職関係図書整備 ・社会科・公民科指導教材の整備 ・ICT (情報通信技術) 教育関連機器の整備 ・教育実習用参考書コーナー・教員採用試験用参考書コーナーの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年—教職ガイダンスを4月～7月にかけて計6回実施 ・2学年—観察実習を附属高校で実施 (6/9) ・教職現場学習を11月17日宇都宮市立旭中学校で実施 ・3学年—履修者なし ・4学年—教育実習生の事前打合せ (4月11日実習校) ～予定通り2名が教育実習を終了 ・教職課程指導室を中心に、指導と支援を適宜行っている。 ・定期刊行物「中等教育資料」、「教職課程」、「社会科教育」の購入・活用 ・関係図書、教材の整備 ・教員採用試験過去問題等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の教育実習の評価については、委員会での検討を踏まえて評価を行い、教授会 (7/7) の承認を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早い段階からの教員としての適性を見極める機会の提供や、教職に対する自覚を促す指導に努める。 ・学校現場等での体験的な活動の一層の充実に努める。 ・「教職現場学習」(2年生対象) については、今後も宇都宮市立旭中学校に協力を仰ぐ。 ・教育実習への心構え等の指導を早期にすすめる。

3—2. 2025年度 大学合同教職課程運営委員会 PDCA報告

I 基本方針			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の教職課程運営委員会規程に基づき、教職課程の充実を図るため、自己点検・評価を行い、その結果を公表する。 ・ 両学部に通ずる課題等を共有、協議し、その改善に努める。 			
P	D	C	A
II 施策			
① 全国(関東)私立大学教職課程協会に係ること ・本年度の自己点検・評価報告書の作成と公表に向けての取組(継続)	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職課程自己点検・評価報告書」内容の検討及び公表に向けての確認を行った。(26.1.16) (基準領域1：教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み 基準領域2：学生の確保・育成・キャリア支援 基準領域3：適切な教職課程カリキュラム) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職課程自己点検・評価報告書」は、本学 HP「情報公開」にて適切に公表されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も協働して継続実施する。 ・次年度も公表の予定。
② 研究協議 ・「学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律」に係る対応について	左記法律の施行を見据えた 2026 年度以降に入学する学生への対応等について確認した。 ・入学生・在学生への対応について (シティ～教育実習の前に同意書・誓約書をとる。 子ども～入学生・在学生ともに実習ガイダンスの折に同意書・誓約書をとる。) ・HP 上でのお知らせを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本学 HP (26.216 付「お知らせ」)にて「教育職員免許状の取得を希望される方へ」として公表されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規程に基づき、今後も必要に応じて協議を行う。

4. 2025年度 シティライフ学部入学試験・広報委員会 PDCA報告

I 基本方針

- ・アドミッション・ポリシーに基づいて、入学試験・広報委員会がアドミッションセンターと協働して、学生募集及び入学選抜の体制を適切に整備し、公正に実施する。
- ・中期計画「III. 入学者の確保に関する目標と計画」に従って、2026年4月の入学者募集計画の目標を65名（日本人65、留学生若干名）とする。

P	D	C	A																		
II 施策 ①在籍学生数増加に向けた広報活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問 ・会場ガイダンス、高校内ガイダンスおよび出前授業への積極的参加。 ・大学ウェブサイトを活用した動画による広報活動。 ・海外（台湾）での留学説明会に参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に高校訪問を実施し、昨年度の生徒の送り出しに対する御礼と、オープンキャンパスの周知を行った。 ・アドミッションセンターを中心に各種ガイダンスに参加した。 ・ホームページに最新の動画をアップロードした。 ・9月20日21日に台湾での説明会に参加し、12名の相談者があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問校数 5月期：県内14コース60校、他県4コース14校 9月期：県内13コース47校、他県4コース11校 ※この他にフォローアップ個別訪問を実施 ・大学ウェブサイトへのアクセス数を増加させるため、外部業者のウェブサイトの一層の活用も有効である。 ・3月の大学体験講座の広報を強化する。 ・台湾からの出願はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、アドミッションセンターおよび他学部学科と協働して効果的な高校訪問を行う。 ・業者ウェブサイトにおける広報予算を拡充し、本学の知名度向上へ繋げる。 																		
②オープンキャンパスの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・全4回のオープンキャンパスの実施。 ・オープンキャンパス高校生の目標参加者数を150名とする。 ・ゼミや学友会の学生が活躍しやすい場を拡充する。 ・春の大学体験講座（3月）の大学・短大共同実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全4回、6月、7月、8月、9月のオープンキャンパスを実施した。 ・高校生の参加者数は、125名だった。 ・「在学生ぶっちゃけトーク」で在学生に司会進行を委ね、自由な雰囲気、楽しい雰囲気を演出した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の参加者数は合計125名 ・模擬授業、学生の学外活動、サークル活動に魅力を感じた高校生の来場があり、指定校推薦での出願に結びついた。 ・シティブクエストで1年生の作問を採用したことはおおむね好評であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスにおける在学生の活躍の場を増やし、運営にも積極的に関与させる。 ・全体プログラム後の個別相談では、教員よりも在学生の話を聞きに来る来場者が多いため、学生スタッフの人数を確保する。 																		
③入試方法等の変更 <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト利用入試の入学検定料無料を継続する。 ・学校推薦型選抜（指定校制）における特待生の条件に「全日制のみ」を加える。 ・特待生入試の試験日を、12月6日（土）とし前年度より1週間早める。 ・総合型選抜の出願資格を変更（①併願受験可能 ②現役高校生および大学、短大、専門学校、高等学校等の既卒者も出願可能） ・外部英語資格・検定試験加点制度について、従来の制度を変更する （実用英検準2級プラスの追加、TOEIC Bridge L&R への変更） 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試区分毎の受験者数は次のとおり 総合型選抜：12名 学校推薦型選抜：34名 特待生入試：34名 一般選抜Ⅰ・Ⅱ期：12名 共通テスト利用入試Ⅰ・Ⅱ期：28名 外国人留学生入試Ⅰ期：6名 ・外部英語資格検定試験加点制度で加点された受験者は、0名だった。 	③入試結果の総括 <ul style="list-style-type: none"> ・一般校からの入学者が19名であったが、学校推薦選抜では、2026年度は7名であった。 ・系列校からの入学者は38名であった。 ・外国人留学生は2名が入学した。 ・合計59名（充足率98%）となり、定員60名にわずかに満たなかった。 （参考：過去5年間の入学者数推移） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> <th>2025</th> <th>2026</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>67</td> <td>58</td> <td>57</td> <td>48</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>1.12</td> <td>0.97</td> <td>0.95</td> <td>0.80</td> <td>0.98</td> </tr> </tbody> </table>	年度	2022	2023	2024	2025	2026	人数	67	58	57	48	59	充足率	1.12	0.97	0.95	0.80	0.98	<ul style="list-style-type: none"> ・学校推薦型選抜は、例年10名以上の志願者があったが、2026年度は7名と少なかったため、高校訪問に力を入れ、各高校との連携を強化する。 ・共通テスト利用での合格者が増加したため、来年度も継続して受験料無料としたい。
年度	2022	2023	2024	2025	2026																
人数	67	58	57	48	59																
充足率	1.12	0.97	0.95	0.80	0.98																
④アドミッション・ポリシーの修正 <ul style="list-style-type: none"> ・入学前の学習歴を明確に示し、修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修正案の素案を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学の例を踏まえ修正案を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッション・ポリシーを修正し、次年度より各媒体にて公開する。 																		

5. 2025年度 シティライフ学部学生委員会 PDCA報告

I. 基本方針			
<p>「学生支援の方針」および中期計画に基づき、学生相互の交流活動を促進するとともに、学生生活の充実を図ることを基本方針とする。 具体的には、①学生相互の交流の促進を目指した仲間づくり応援事業 ②学生生活の充実を目指したキャンパスライフ向上事業を実施する</p>			
P	D	C	A
II. 施策			
<p>①学生相互の交流活動の促進（仲間づくり支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シティキャンパス学生会の活動を支援し、各種の行事を実施する。 新生歓迎会（4月）合宿交流研修（4月）親睦会（バーベキュー大会 5月）レクリエーション・フェスティバル（9月）大学祭（10月）クリスマスマーケット（12月）卒業記念祝賀会（3月） ・各種行事を通じて、長坂キャンパス（子ども生活学部）とも密なる交流を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・新生歓迎会はリハーサルを経て実施された。 ・合宿研修では、子ども生活学部および宇都宮短期大学と同時開催され、より一層交流が深まった。 ・これまで学生有志で運営されてきた親睦会は、学事歴に記載された公式行事となり、より積極的に学生支援が可能となった 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートでは「新しい人間関係を構築できましたか」（5段階評価）で、「1 できた」が57.73%、「2」が20.62%と、研修行事が学生相互の交流活動を促進する機能を有することが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これらの交流が他の学修成果へ与える影響についても検討を行っていく
<p>②学生生活の充実（キャンパスライフ向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金による支援、課外活動への支援、表彰と懲戒、各種セミナーの実施などにより、学生生活の質的向上を支援する。 ・こころとからだの相談室（学生相談および健康相談）の実施により、心身ともに健全で安心な学生生活を支援する。 ・「学生生活実態調査」により、学生生活の現状、満足度等を把握し、今後の施策に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構貸与型・給付型奨学金による学生支援を行った。 ・知識力奨学金による資格取得支援を行った。 ・部／サークルへの予算配賦を行った。 ・4～7月に保健師による健康相談（からだの相談）およびカウンセラーによる学生相談（こころの相談）を実施した。 ・「学生生活実態調査」について、5月は新生を対象で、秋ガイダンス時に全学年で、3月に卒業生を対象で、Googleフォームによって実施した。全学年対象の調査は、アンケート内容を学部間で調整後実施し、97.7%の回答を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金による学生支援は現在のところ適切に行われている。 ・知識力奨学金では、合格が出る試験50件中20件(40.0%)合格した。 ・予算は67.2% (322,815円) 執行された。 ・健康相談（からだの相談）が7名（のべ7件）、こころの相談が2名（のべ10件）行われた。 ・1時間以上学修をした学生の割合は「予習・復習・課題」が81.8%、「ゼミ活動や卒論」が86.0%、「自主学習（資格の勉強等）」が65.0%であった。 ・学生からの要望は、実施可能なものについては対応し、学生に周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらの奨学金も適切な支援体制を継続していく。 ・継続性が高く活動が活発に行われるよう、サークル設立基準や予算配賦基準についても随時検討していく。 ・今後も相談室の利用促進のため周知を行っていく。 ・今後、こうした学修状況が学習成果等に与える影響について、他委員会と連携しながら分析・考察していく。
<p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シティライフ学部同窓会の活動を支援し、卒業生のネットワーク拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生主催イベントであるス親睦会に同窓生も参加した。また、「親睦会等助成事業」助成金を利用して、現役学生を含めた親睦会が実施された 	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓生と現役学生との相互交流が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創設期に近い同窓生と卒業したばかりの同窓生との積極的な交流をすべく今後も方策を検討していく。

6. 2025年度 シティライフ学部キャンパス・ハラスメント防止・啓発委員会 PDCA報告

I 基本方針			
本学キャンパス・ハラスメント防止・啓発宣言及びキャンパス・ハラスメント防止・啓発規程（令和4年4月1日改訂施行）を踏まえ、ハラスメントの更なる防止・啓発のために、以下のことに取り組む。 ・ハラスメント防止に関する情報収集、研修・啓発活動の推進 ・ハラスメントに関する相談とその対応			
P	D	C	A
II 施策			
①学生向けキャンパス・ハラスメント防止啓発オリエンテーションの実施 ・相談窓口に関するガイダンス ・リーフレット（防止・相談の手引き）活用	・学年別（留年者を含む）に、春のオリエンテーション時（4月3・4日）に実施した。 （担当：委員会委員）	・その内容は学生生活実態調査に反映させている。	・今後も継続して実施する。
②相談体制の充実 ・キャンパス・ハラスメント相談員の配置（教員2名・職員2名）	・相談員研修の一環として、文科省資料「ハラスメント相談の対応について」を活用（5月） ・全学生に「相談窓口・相談員一覧」を配付した。 （春・秋のオリエンテーション時） ・相談件数 0件	・相談体制（相談窓口）が、学生たちに周知されてきた。 （学生生活実態調査（9月実施）より～91%） ・学生生活実態調査より～ハラスメント被害など特になし。	・更なる周知に努める。
③【学生対象】キャンパス・ハラスメント防止啓発研修会の実施（1年生対象） ・宇都宮市主催「デートDV防止出前講座」（昨年度に続き）を予定 講師：NPO 法人ウイメンズハウスとちぎ	・秋学期ガイダンスで文科省動画「ハラスメントへの対応」を全学生に周知した。 ・左記研修会を9月9日（火）（13：00～14：30）に実施	・デートDVの現状や対応の仕方、相談窓口・支援機関など、正しい情報・理解の大切さを学ぶ有意義な機会となった。 ・事後アンケート実施	・学生のニーズや社会状況を勘案しながら、テーマ設定を行う。
④【教職員対象】全学キャンパス・ハラスメント防止啓発研修会の実施 （本年度はUCC委員会が企画）	・11月10日（月）UCCにて実施 1月9日（金）NGCにて実施 テーマ「パワハラ防止とホスピタリティマナー」 講師：日本アンガーマネジメント協会 富沢三輪子さん	・事後アンケート実施（大変好評であった） ハラスメント全般について、アンガーマネジメントなど実用的な内容であった。	・研修テーマや内容については、今年度の内容、事後アンケート結果を踏まえて検討する。 ・2026年度はNGCキャン・ハラ委員会の企画となる。
⑤教職員（特に新任教員）の外部講習会への参加	・2名の新任教員が、オンラインによる研修に参加し、報告書を提出した。	・大学教員として必要な知識を得る良い機会となっている。	・今後も新任教職員を優先して外部講習会に派遣したい。
⑥本学のキャンパス・ハラスメント規程（令和4年4月1日改訂施行）の運用	・規程に沿って運用した。	・適切に運用されている。	・引き続き学部の特性に配慮しながら、規程の運用に努めていく。

7. 2025年度 シティライフ学部就職委員会 PDCA期末報告

I. 基本方針

「学生支援の方針」に基づいて、学生の個性を大切にしながらきめ細かな進路支援を行う。

- ・学生の就活意欲の階層化に対応できる体制づくり
- ・キャリア教育の充実
- ・学生の就職意識を高め、自己実現の達成を目的とする教育環境の整備
- ・社会経済状況に対応した就職支援の実施

P	D	C	A
<h3>II. 施策</h3>			
①多様なニーズや課題に対応するための個人面談等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア相談室及び就職委員による個人面談の実施 ・ゼミ担当者による個人面談の実施 ・外部相談員による個人面談の実施 ・面接実践トレーニングの実施と参加率向上 ・特別支援ニーズ学生に向けた専門機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ担当者による3、4年生個人面談の実施 ・キャリア相談室109回、就職委員28回、ハローワーク116回、ジョブモール16回、ワークエントリー6回実施(2月末時点・延べ) ・面接実践トレーニングを4日間実施 ・特別な支援を要する学生(2名)への専門機関連携による個別面談や個別サポートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談回数は昨年度より1.5倍に増加 ・就職率は92.2%であった ・トレーニング参加率は71.6%であった ・障がい学生への支援策作成、HP公表 ・専門機関や保護者との面談3回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種個人面談体制の継続 ・特別ニーズではないが支援が必要な学生への支援策の検討 ・欠席者へのフォローの充実 ・支援策の運用の確認
②キャリア関連科目の開講 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン講座の実施(「II」の講義内容改善) ・「企業研究」講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアデザインI・II」「企業研究」実施 ・「CDII」にアクティブラーニングを導入 ・基礎ゼミ内で「キャリアデザインの基礎」を実施 	<p>「CDII」の授業評価は過去2年と比べ全体平均が上昇</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアデザインの基礎」の実施内容の検討 ・ニーズに合わせた登壇者を検討
③就職支援講座の実施と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援講座の実施 ・文章講座の実施 ・公務員への関心を高める講義の実施 ・就職支援講座出席率向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・リクナビ、マイナビ、キャリアタス等を活用した就職支援講座を実施 ・文章講座を2回に分けて実施 ・公務員関連講義を2回実施 ・出席状況の確認と個別指導を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・より実践的な講義を望む受講生の意見有 ・経営者ではなく若手社員の招聘希望有 ・1回目36名、2回目23名参加 ・2026卒公務員採用者3名 ・昨年度より出席状況改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容の改善を検討 ・登壇者の人選の検討 ・参加者上昇策の検討 ・公務員希望者数の安定的維持 ・出席率の上昇策の検討
④資格試験対策講座の実施と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・簿記関連講座の実施と活用 ・ITサポート対策講座の実施と活用 ・公務員試験対策講座の実施と活用 ・FP講座(2・3級)の実施と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記演習I(9名)、II(12名)、補習(週1)実施 ・ITサポート講座全20回開講(4名受講) ・公務員採用試験対策講座の開講(14名受講) ・FP3級講座開講(2名)、2級(1名)受講 	<ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記初級7名合格 ・日商簿記3級7名合格 ・FP3級1名合格 	<ul style="list-style-type: none"> ・2級受験者増加に向けた施策 ・ITサポート・FP講座、公務員講座への参加者増加に向けた施策 ・FP2級/3級講座の開講
⑤採用早期化に向けた対策 <ul style="list-style-type: none"> ・外部就活支援企業によるガイダンスの実施 ・インターンシップへの参加促進 ・情報収集、マナー等就活準備対策の強化 ・インターンシップ単位認定手続きの検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス、7/28事前指導、9/22事後指導を実施 ・県経営者協会インターンシップ実習22名参加 ・インターンシップ先企業等訪問実施 ・就職支援講座内で情報提供を強化 ・改訂した評価書による評価を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より参加者6名増加 ・申込書の内容に改善の余地あり ・ビジネスマナーと業界研究不足の把握 ・ビジネスマナーは更なる強化要 ・複数の基準から客観的評価が可能に 	<ul style="list-style-type: none"> ・激励会の開催を検討 ・インターンシップ申込書改訂 ・ビジネスマナー、業界研究の強化、インターンシップに選考を設けるか検討
⑥就職情報の収集及び提供 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア相談室/就職委員会による就職関連情報の収集 ・学生/教職員/保護者への就職関連情報の提供 ・求人票及び各種資料、書類のデータ化 ・とちぎ未来人材応援奨学金支援助成金の活用 ・就活用写真提供時期の早期化 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成支援推進協議会参加 ・地域就職支援センターによる意見交換会参加 ・平出工業団地との連携 ・保護者向け就職講演会を内容改訂して実施 ・保護者との就職面談を3回実施 ・クラスルーム、メールシステム等による情報提供 ・求人票、インターンシップ申込書のデータ化 ・就職支援講座やガイダンスでの周知実施 ・撮影を9月に変更、同月中に提供開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数社のオープンカンパニー等への学生参加につながった ・高評価を得た ・情報提供内容を増加した ・申請者は8名であった 	<ul style="list-style-type: none"> ・就活早期化による課題の検討 ・リピーター向けに講演者検討 ・適切な内容の定期発信を推進 ・更なるデータ化を推進 ・とちぎ未来人材応援奨学金支援助成金申請者を増やす

8. 2025年度 シティライフ学部国際交流センター PDCA報告

<p>I. 基本方針</p> <p>留学生の受入れ手続きを適切に行う。学生生活の充実、日本人学生との交流の支援をする。</p>			
P	D	C	A
<p>II. 施策</p> <p>① 学生募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の日本語学校との連携を深める。9月～10月に宇都宮市内日本語学校を訪問する。 ・インターネット等で県外、海外からの出願を広報する。また、海外（台湾）での留学説明会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月～10月に宇都宮市内日本語学校6校（宇都宮日本語学院／アティス・インターナショナル・アカデミー／宇都宮日建工科専門学校／マロニエ日本語学院／栃木国際教育学院／オリオンIT専門学校）訪問した。 ・台湾での日本留学フェアに参加し、12名の相談者に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市内の日本語学校からの合格者はいなかった。 ・2026年度の入学者は2名（仙台・さいたまの日本語学校出身）であった。 ・宇都宮市内の「智知国際交流館」と新たに協定関係を結んだ。 ・台湾からの出願者はいなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、宇都宮市内の日本語学校と連携を密にしていきたい。 ・新たな協定機関との連携を強化したい。 ・海外からの出願者増加に力を入れたい。
<p>② 学生生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な生活指導を行う。4、6、7、9、12、1月に留学生ガイダンスを行う。 ・文化交流を支援する。すみれ祭においてスピーチコンテストを実施する。 ・生活手続きを支援する。アパート家賃補助制度、留学生保険、入国管理局申請支援などを適切に行う。 ・留学生研修旅行を計画し、実行する。日本文化体験ができるような研修旅行を計画する。 ・留学生の就職活動を支援する。 ・海外留学の情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4、5、7、9月、12月、1月にガイダンスを実施した。 ・すみれ祭スピーチ大会において、日本語部門では留学生2名が発表、英語部門では1年生3名、2年生1名が発表、司会進行はダイヤモンド奨学生留学生2名が行った。 ・アパート家賃補助制度は、1年生3名が利用した。 ・留学生研修旅行は、宇都宮市国際交流協会主催の工場見学会に申し込んだが、アサヒビールの工場見学が不可となり、中止となった。 ・卒業見込者3名のうち1名が日本企業から内定をもらった。 ・掲示板を通じて海外留学情報を発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各月のガイダンスにおいて、学生生活、奨学金、就職説明会等の周知を行った。 ・スピーチ大会での留学生による司会は好評であった。 ・家賃補助制度は滞りなく運用した。 ・卒業生3名のうち、1名が国内企業に就職、2名は特別活動ビザに切り替え、引き続き就職活動を行うこととなった。 ・海外留学希望の相談はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、定期的な留学生ガイダンスを実施し、生活指導等を行っていきたい。 ・今年度もスピーチ開会を実施したい。 ・卒業予定者4名の就職活動サポートをしていきたい。 ・引き続き、掲示板を通じて海外留学情報を発信していきたい。

9. 2025年度 シティライフ学部研究・図書委員会 PDCA報告

I 基本方針

・シティライフ学部にふさわしい研究・教育環境を整備し、より一層の充実を図ることを基本方針とし、下記の方針を掲げる。

- ① 教員の研究活動の推進
- ② 図書館機能の充実と図書館の利用促進

P	D	C	A
<p>II 施策</p> <p>①研究活動の充実・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究機会の促進と研究環境の整備(共同研究、本学部独自研究等)の活用を促進する。 ・電子ジャーナルを有効活用する。 ・電子版データベースを収集・整備する。 ・研究倫理研修(eラーニング等)を実施する。 <p>②「シティライフ学研究(第27号)」の発行 (研究論文、研究報告の充実化)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月委員会にて基本方針・施策(案)を策定した。 ・5月 同上 教授会にて承認された。 ・電子ジャーナルの活用が十分でなかった。 ・12月にEラーニングによる研究倫理研修(YouTube 動画「倫理の空白IV 研究活動のグレーゾーン2」)、1月にフォローアップ研修を実施。 ・11月にシティライフ学研究(第27号)の論文、研究ノート等の投稿を募集予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子ジャーナルについては思うように活用が図られなかったため、次年度廃止の予定。代替案を検討。 ・専任教員等関係者全員が受講し、事後アンケートを実施して成果を確認した。 ・論文11点の投稿があった。 	<p>①研究活動の充実・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究・独自研究企画案の募集 ・電子版データベースの収集・整備 ・電子ジャーナルの代替(論文購入費)の周知と活用 ・研究倫理研修(eラーニング等)の実施 <p>②シティライフ学研究(第28号)の発行</p>
<p>③図書館機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シティライフ学部図書として相応しい教養書・基本書等や経済系、まちづくり系、生活系の入門書・専門書の充実を図る。 ・蔵書点検を行う。(2024年度より4年間かけて行う) <p>④図書館の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書収集情報の共有化と学生向け図書の充実を図る。(専門分野別参考図書コーナーの設置、卒論・卒研・論文書き方、就職特集等々の特集コーナーの利用促進、学生のニーズに対応した各種コーナーの充実) ・図書館利用促進のための広報活動の一環として「図書館だより」を発行し、紙媒体による配布を促進する。(図書館利用マニュアル等図書館情報関連資料の充実) ・ラーニングコモンズやその他の学習の場の積極的活用を図る。 ・就職活動支援図書及び学生のリクエスト図書を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月に蔵書点検を実施した。(3709冊) ・4月、5月、7月、10月、11月、1月に教員推薦図書を購入した。 ・4月、7月、10月、1月に「図書館だより」を発行した。 ・8～9月に視聴覚DVDケース入替作業を行った。(100枚) 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考書等を学生が閲覧するなど、各コーナーや図書の活用が図られている。 ・本年度、教員からの推薦図書が32冊あり、これまでの推薦図書も含め、学生に活用されている。 ・各コーナーの設置や推薦図書等を「図書館だより」等によって学生に周知するなどして、図書の活用促進を図っている。 	<p>③図書館機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シティライフ学部図書としての教養書・基本書、経済系、まちづくり、生活系の入門書・専門書の充実 <p>④図書館の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野別参考図書コーナー、特集コーナー等、各種コーナーの充実及び利用促進 ・図書館利用促進の広報活動の充実(「図書館だより」の発行、利用マニュアル等図書館関連資料の提供) ・ラーニングコモンズ、その他の学習の場の活用促進 ・就職活動支援図書の充実と活用促進 ・学生リクエスト図書の応募促進

10. 2025年度 シティライフ学部都市経済研究センター PDCA報告

I. 基本方針

・「宇都宮共和大学の地域社会連携・地域貢献ポリシー」に基づき、地域に開かれた大学として、地域経済の発展とより豊かな地域社会の構築に向けて、地域が抱える様々な課題の解決のための研究活動を行う。

P	D	C	A
II. 施策 ①シンポジウム、講演会の開催 ・シンポジウム、講演会			
	・「とちぎ SHOGUN 物語」シンポジウム共催（5月13日） 第2回「とちぎ SHOGUN 物語シンポジウム共催（2月27日）	・地域の活性化に貢献するため、今後も行政、企業、住民と連携する。	・来年度は主催者としてシンポジウムを開催予定。
② 地域産官学連携活動 ・「とちぎ子どもの未来創造大学」の講座開催 ・「とちぎ学生アイデアピッチバトル」の運営支援 ・学外の委員会への参画 ・カーボンニュートラル推進事業委員会			
	・8月8日開催。参加者17名。 ・12月20日実施 ・学外の複数の委員会に委員として参加した。 ・「とちぎのCN推進産官学講演会」（11月27日）	・学生の協力が重要であった。 ・運営体制及び運営方法について確認を行った。 ・社会貢献活動として重視している。 ・産官学連携事業として重視している。	・来年度の実施に向け、早期に準備を行う。 ・運営支援及び学生支援を行う。 ・地域貢献の一環として積極的に参加する。 ・引き続き、連携事業として推進する。
③ 学生支援 ・まちづくり活動に参加する学生への支援			
	・「宮桜祭」（4月5日） 宇都宮市「平和のつどい」ボランティア参加（7月6日） 「SDGs 講師派遣」（8月10日・10月12日） 霜月祭&築瀬地区文化祭（11月1日） 魅力都市研究会「光の遊び場」（11月13日～14日） 「コザイノカタチ～大谷石～」（9月21日・12月17日・1月24日）	・学生のまちづくり活動への参加は学生生活を充実させ、地域社会にも貢献している。	・学生主体の活動として、支援を継続する。
④ 生涯学習支援事業 ・那須塩原市民大学連携講座の企画・運営 ・とちぎ県民カレッジ連携講座の企画・運営 ・講師派遣制度の運用			
	・2回実施（6月25日・8月2日）51名参加 ・不開講であった。 ・「命を守る防災まちづくり」（11月9日）	・地域社会との連携として重要である。 ・来年度は募集日程の見直しを行う。 ・地域貢献活動として重視している。	・来年度も那須塩原市と連携し、開催する。 ・来年度も栃木県と連携し、開催する。 ・引き続き、「講師派遣制度」の周知を図り、積極的に取り組む。
⑤ 都市経済研究センター年報の発刊・配布 ・第25号の刊行と第26号の企画 ・効果的な配布と情報発信			
	・6月に刊行した。 ・地域の関連団体に送付。本学ウェブサイトと、国の電子ジャーナル公開サイト「J-stage」に電子版を掲載した。	・5月刊行予定であったが遅れた。 ・センターの活動について広く対外的に発信することができた。	・第26号の刊行に向けて準備している。 ・今後も効果的な情報発信方法について検討する。
⑥ 学内共同組織との連携強化 ・シンポジウム・講演・事業計画の調整等 ・宇都宮共和大学内共同組織運営会議への参加			
	・事業計画等の情報共有を重点的に行った。 ・3月20日に実施した。	・地域への貢献のため、積極的に講師を派遣する。 ・学内他センターの状況を確認した。	・今後も調整、情報共有を円滑に行う。 ・他センターとの協働を進める。
⑦ 宇都宮市創造都市研究センターの運営 ・運営委員会への参画 ・他大学・産業界との人事交流の実施 ・共同イベント等の実施			
	・運営委員として1名参画 ・文星芸術大学及びまちづくり推進機構と人事交流の協定締結（7月1日） ・4大学連携ゼミ魅力都市研究会への参加 高大接続フォーラム（8月20日） 就職情報交換セミナー（9月29日） まちなか大学（10月1日）	・宇都宮市創造都市研究センターへの参加を継続。 ・プラットフォーム事業として交流を推進する。 ・教職員の協力により、共同イベントを実施することができた。	・来年度も運営委員として参加する。 ・協定に基づいて人事交流を行う。 ・今後も教職員が協力して実施する。

宇都宮共和大学 子ども生活学部

2025 年度自己点検・評価報告書

(各委員会P D C A報告)

• 自己点検・評価推進部会	p. 14
• 教務委員会	p. 15
• 教職課程運営委員会	p. 16
実習委員会	p. 17
• 入学試験・広報委員会	p. 18
• 学生委員会	p. 19
• キャンパス・ハラスメント防止・啓発委員会	p. 20
• 就職委員会	p. 21
• 研究・図書委員会	p. 22
• 子育て支援研究センター	p. 23

1. 2025年度 子ども生活学部自己点検・評価推進部会 PDCA報告

I 基本方針

- ・内部質保証会議、自己点検・評価委員会、自己点検・評価推進部会等の自己点検評価組織の円滑な運営を目指す。
- ・教育の質保証に向けて、各委員会及び子育て支援研究センターの活動の活性化を図るため、組織的な支援をする。
- ・教員の配置や教員組織の適切性について定期的に点検・評価する仕組みについて検討し、実施する。
- ・教員の質の向上をめざし、教育方法の改善に関する取り組みを活性化する。

P	D	C	A
<h3>II 施策</h3> <p>① 自己点検・評価の推進および大学基準協会第4期認証評価への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中期目標及び中期計画の進行管理表」「内部質保証に関するチェックリスト」を用いた点検・評価等の実施 ・その他自己点検・評価に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・実地調査前の回答および根拠資料を取りまとめた。実地調査(9/14-15)を行った。 ・「中期目標及び中期計画の進行管理表」内部質保証に関するチェックリストにより点検を行った。 ・学生への意見徴収の実施(大学基準協会より依頼、5月) ・アセスメントポリシーの策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・中期目標・中期計画の見直し(項目の追加等)が必要である ・アセスメントポリシーの運用体制が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な運用方法については引き続き検討が必要
<p>② 授業改善アンケートの実施と授業改善支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期に授業改善アンケートを実施 ・「学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組」の作成による授業改善支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に授業改善アンケートを実施。春の回収率96%、秋は97%であった。アンケート結果を本学サイトに公表した ・左記の取り組みはサイトに公表した？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答率は高水準を維持 ・アンケート結果のフィードバック方法に課題 	
<p>③ FD・SD研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業方法の改善に向けた教員相互参観 ・学習成果の可視化に向けた研修 ・FD報告書の作成と公表 	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期は6件の授業参観を実施 ・授業参観は春学期5件、秋学期10件実施した ・FD:7/4「校正の仕方」、FDSD:8/4「教育機関における著作物の利用と知財教育」、FD:10/3「AIの活用について」、FD:2/13「シラバスチェック」、FD:3/6「ポートフォリオとアセスメントポリシー」 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に実施したFDは学習成果の可視化の検討材料となった ・DPの見直しや成績評価に関する課題が共有された 	<ul style="list-style-type: none"> ・DPおよびカリキュラムマップ、成績評価のあり方について次年度以降検討する
<p>④ 卒業生アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの送付 ・集計結果の検証 ・卒業生アンケート報告書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在対応中 		

2. 2025年度 子ども生活学部教務委員会 PDCA報告

I 基本方針(重点項目)			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程を体系的に編成し、適切に運営する。 ・学生の学修を支援し、教育を効果的に行う。 ・学位授与方針に基づく学生の学修成果の評価および可視化をする。 			
P	D	C	A
II 施策(重点項目)			
①教育課程の運営および効果的な教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の適切な運営 ・シラバスの点検・確認 ・Chromebook および classroom を活用したアクティブ・ラーニングの推進 ・教育課程の評価および新課程の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割および多目的アワーの活用により、運営を進めている。 ・Google classroom の作成および学生への適切なフィードバックを含め依頼した。 ・新履修モデル「健康スポーツ」の導入の検討、及び情報倫理教育の整備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では適切に運営している。 ・今年度、再履修科目のある学生が多く、多目的アワーの活用が困難なケースが生じた。 ・シラバスチェックを 2/13 (金) に実施 ・Google スライドを活用した共同編集によるアクティブ・ラーニングや Google form を活用したリフレクション、classroom のコメントを活用したフィードバックなど各教員が取り組んでおり、授業方法として共有していく。 ・教職免許法改正の動きを注視しつつ、新カリ検討を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再履修者に配慮しつつも 15 回授業の確保を最優先に調整する。 ・授業評価アンケートの結果をシラバスでフィードバックする仕組みを検討する。 ・classroom を活用するなど適切にフィードバックするよう先生方に依頼する。 ・2029 を目途にスポーツ、小学校教諭免許状、その他既存の資源を生かした新カリキュラムを検討したい。
②学生の学修支援 <ul style="list-style-type: none"> ・教務ガイダンスの実施および履修指導 ・特別に支援が必要な学生(合理的配慮が必要な学生、成績不振な学生含む)への対応の検討(他委員会と連携) ・星槎大学通信課程を受講する学生への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務ガイダンスを実施、必要な学生に対し個別指導を実施。学生委員会と情報共有した。 ・5/23 新規希望学生ガイダンス実施。履修学生にガイダンスを実施、履修状況の確認および必要な支援についてヒアリングした 	<ul style="list-style-type: none"> ・履修指導後の確認が必要な学生が複数いる。 ・成績不振学生について、支援を継続する。 ・4年2名が10~12月に特別支援学校で実習予定。2年1名(小免)が順調に履修。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業を優先に履修支援する。 ・星槎の履修支援が効果をあげている。講座とし立ち上げるなど支援体制を強化する。
③学修成果の評価および可視化 <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準のシラバスへの明示および評価の適切性の確認 ・適切な学修フィードバックの推進 ・学位授与方針の到達度の評価および学習成果の可視化 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・ポリシーについて自己点検委員会と検討を進めている。 ・ガイダンスにおいて履修カルテ、GPA、DP の状況など確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続する。 ・学年末にむけポートフォリオ作成指導を行い学習成果の可視化および共有をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法(基準)、評価のフィードバックの仕組化について検討する。 ・各科目の学習目標の評価基準・ルーブリックの整合性を検討する。
④その他 <ul style="list-style-type: none"> ・今日的な教育課題への対応(リテラシー教育、コミュニケーション力の育成など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ、情報リテラシーについて classroom にて周知およびガイダンスを実施した。 ・挨拶、授業におけるグループ活動の指導などコミュニケーションを意識して自己発揮する機会を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリへの反映を含め、適切な対応方法の検討を継続する。 ・授業方法の工夫により効果が出ている様子(「一年間の学び」学生報告より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・①に関連し、情報関連の新科目の立ち上げを検討 ・授業方法の改善の工夫を共有していく。

3-1. 2025年度 子ども生活学部教職課程運営委員会 PDCA報告

I 基本方針

○本学の教員養成の理念に基づき、教育現場の課題に応じた教職指導のカリキュラムマネジメントにより、指導の充実を図る。

- ・教職員の共通理解に基づき、教職課程の運営を協働的に進める。
- ・学生の特質を踏まえながら教職課程履修支援をきめ細かく進め、キャリア支援の充実を図る。

P	D	C	A
<p>① 教職員の共通理解に基づき、教職課程の運営を協働的に進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目間連携を進め、組織的・協働的に教職課程運営を行う。 ・大学合同教職課程運営委員会にて、教職課程運営委員会の運営について検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習担当者連絡会において学生の情報を共有し指導を進めた。(6月、9月、12月) ・教育実習巡回を全教員で担当し、実習先の状況を踏まえた事後指導を行った。 ・大学合同教職課程運営委員会をもち、課題について協議を行った。(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員の共通理解に基づいた、教職課程関連事業への参画は、科目間連携や学生指導に効果的であった。 ・大学合同教職課程運営委員会にて、国の動向や教職課程関連のカリキュラム運営について情報を共有することは、教職課程の運営に有効であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の共通認識のもと、教職課程の運営を組織的かつ協働的に進める。 ・実習担当者連絡会及び・教育実習協議会を継続し、教員間の協働的体制と地域との連携を継続する。 ・大学合同教職課程運営委員会により、大学としての共通認識を図る。
<p>②教職課程の充実を図り、教職課程履修支援を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の特性に応じ、教職への意欲を高める支援を行う。 ・資格取得を知識力奨学金で支援する。 ・キャリア支援を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の特性に応じた支援に努めた。 ・星槎大学通信課程による免許取得を知識力奨学金で支援した。 ・関係団体の開催する就職フェアなどへの参加を推奨した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の強みを生かした実習指導を心掛け、学生が実習に迎える援助を行った。 ・個別の学習支援が適切に行えた。 ・学びを実践する場を提供することができ、学生の実践力が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程の充実を図り、教職課程履修支援に努める。 ・実習委員会との連携による保育者養成理念の共有をしていく。 ・知識力奨学金制度の周知を推進する。 ・就職委員会との連携を図っていく。
<p>③本学の教員養成基本方針を踏まえたカリキュラムの編成・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生自身が課題を把握できるよう、学びの可視化を図る。 ・現場体験やボランティア活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・履修カルテやポートフォリオにより、半期ごとに自己評価を行った。 ・今日的な課題への対応力の育成のため、保育・教職実践演習(4年)において入学直後の小学校1年生の支援ボランティアを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成基本方針からのカリキュラムは適切に編成されている。最終学年には、各事業の目的に合致した学生のパフォーマンスがみられる。 ・小学校でのボランティア活動により、幼児期の保育の目指すところを現場で感じ取ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の教員養成基本方針を踏まえたカリキュラムを編成し実施する。 ・学びの可視化・自覚化、現場体験の機会確保、・今日的な課題へのアプローチなどについて、引き続き取り組んでいく。

3-3. 2025年度 子ども生活学部実習委員会 PDCA報告

I 基本方針

○教職課程、保育士課程のカリキュラムの評価、改善を通して、指導の充実を図る。

- ・教育・保育実習が十分な成果を得るものとなるよう、科目間連携を図り、全教員が組織的に、一人一人の学生に適切な指導を行う。
- ・学生の実態に応じて、合理的配慮を行いながら実習指導を行う。

P	D	C	A
II 施策（実習委員会） ①カリキュラムに関すること ・科目間の連携を基盤として、実習カリキュラムのマネジメントを進める。	・教育実習と保育実習、音楽療法実習の関連を図るとともに、関連科目や担任との連携を図り、実習指導の充実を図った。（保育内容各領域、保育内容総合演習、教材研究、社会的養護、障害児保育、乳児保育、リトミック、保育指導法など）	① ・実習の時期と、関連科目の内容が合致するようなカリキュラムの構成をすることができた。（保育内容各領域や総合演習と各実習の連携）	① ・引き続き科目間連携に取り組んでいく。 ・日誌のデジタル化など、改善点について実習協議会等で協議していく。
②実習指導に関すること ・全教員が指導の方針を共有しながら実習指導を行う。 ・保育士養成倫理綱領に沿った取り組みを行う。 ・地域との連携を推進し、関係各機関や実習園と実習の目的や課題の共有をする。	・実習担当者連絡会を開催し、配属学生の状況を共有し指導を行った。（6月9月12月） ・教学会議で保育士養成倫理綱領について資料配布を行う。 ・幼稚園連合会教育実習連絡会、宇都宮市保育実習連絡会への参加（6月・1月）	・実習担当者連絡会を実習の前に開催することができ、巡回指導や事後指導に生かすことができた。 ・倫理綱領の趣旨を認識することができた。 ・実習協議会にて日誌のデジタル化や学生のコミュニケーションに関する課題が浮かび上がった。 ・幼稚園連合会教育実習連絡会、宇都宮市保育実習連絡会において、実習時期の調整を図ることができた。	・今後も学生の成長や課題を全教員と共有し、指導に生かしていく。 ・引き続き、関係機関や実習園と連携を図り、実習指導の充実を図る。

4. 2025年度 子ども生活学部入学試験・広報委員会 PDCA報告

I 基本方針

- ・アドミッション・ポリシーに基づいて、入学試験・広報委員会がアドミッションセンターと協働して、学生募集及び入学者選抜の体制を適切に整備し、公正に実施する。
- ・中期計画「III. 入学者の確保に関する目標と計画」に従って、引き続き入学定員率の目標達成に努める。

P	D	C	A																		
II 施策 ①在籍学生数増加に向けた広報活動の強化と充実 <ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問、会場ガイダンス、高校内ガイダンスおよび出前授業への積極的参加 ・大学ウェブサイトを活用した動画による広報活動 ・2027年度スポーツ健康指導者モデル開設に向けての準備 ・入学定員数の変更について具体的に見直しする 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションセンターの主導のもと、エリア担当制にて、大学・短大の教職員で分担して高校訪問を実施した。 ・大学見学会、土曜見学会を実施。 ・各種ガイダンス、進路説明会、出前授業に参加した。・土曜日見学会を実施。 ・授業紹介動画を作成し、HPに掲載した。 ・新履修モデルの策定とパンフレットの作成 ・入学定員数の変更(70人→60人)を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問校数 5月期：県内14コース60校 他県4コース14校 9月期：県内13コース47校 他県4コース11校 ※この他にフォローアップ個別訪問を実施 ・大学ウェブサイトへのアクセス数を増加させるため、外部業者のウェブサイトの一層の活用も有効である。 ・3月の大学体験講座の広報を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションセンターおよび他学部学科と協働して効果的な広報活動を行う。 ・入学定員数の変更申請の準備 																		
②オープンキャンパス・春の大学体験講座の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・全4回のオープンキャンパスの実施 ・高校生の目標参加者数を150名とする ・学生が主体的に参加できるような場とする ・全学共同での春の大学体験講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、7月、8月、9月に実施。 ・学生ボランティアの意見を反映し学生主体の運営に努めた。 ・授業内容の動画上映、卒業研究の掲示等、日々の教育内容に触れられる取組みを導入した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の参加者数は、6月39人(前年30人)7月34人(前年31人)8月55人(前年47人)9月20人(前年23人)計148人参加で前年度(131人)を上回った。 ・動画や掲示物を刷新し、教育内容のPRができた。 ・学生と高校生が触れ合える企画を取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部の強みや取り組みの発信を強化する。 																		
③入試方法等の変更等 <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト利用入試の入学検定料無料を継続する ・特待生入試の試験日を1週間早める ・学校推薦型選抜(指定校制)における特待生の条件に「全日制のみ」を加える ・学校推薦型選抜(公募制)の特待生選考基準に「全体の学習成績の状況4.2以上」を追加 ・総合型選抜の出願資格を変更(①併願受験可能 ②現役高校生および大学、短大、専門学校、高等学校等の既卒者も出願可能) ・外部英語資格・検定試験加点制度の従来の制度を変更する (実用英検準2級プラスの追加、TOEIC Bridge L&Rへの変更) 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試区分毎の受験者数は次のとおり 総合型選抜：3名 学校推薦型選抜：29名 特待生入試：22名 一般選抜Ⅰ・Ⅱ期：1名 共通テスト利用入試Ⅰ・Ⅱ期：4名 ・外部英語資格検定試験加点制度で加点された受験者は、1名だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試結果の総括 学校推薦型選抜29名(A特6名S特1名)/公募推薦0名/総合型選抜3名/特待生入試0名/一般・共通テスト利用1名/一般選抜Ⅱ期1名/合計34名となった。 ・総合型選抜の併願受験者が1名いた。 ・学校推薦型選抜による一般校入学者は前年度より3名増加(18名←15名) ・共通テスト利用入試Ⅰ・Ⅱ入学者1名(1名←0名) (参考：過去5年の入学者数推移) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> <th>2025</th> <th>2026</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>47</td> <td>55</td> <td>38</td> <td>38</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>0.67</td> <td>0.78</td> <td>0.54</td> <td>0.54</td> <td>0.49</td> </tr> </tbody> </table>	年度	2022	2023	2024	2025	2026	人数	47	55	38	38	34	充足率	0.67	0.78	0.54	0.54	0.49	<ul style="list-style-type: none"> ・受験者増加に向けて、動向把握、情報発信の充実、高校との連携強化を図る。
年度	2022	2023	2024	2025	2026																
人数	47	55	38	38	34																
充足率	0.67	0.78	0.54	0.54	0.49																
④アドミッション・ポリシーの修正 <ul style="list-style-type: none"> ・入学前の学習歴を明確に示し、修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修正案の素案を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学の例を踏まえ修正案を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度より各媒体にて公開する。 																		

5. 2025年度 子ども生活学部学生委員会 PDCA報告

I 基本方針			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生一人ひとりの心身の健康を重視し、保健衛生に関わる相談の適切な対応ができるカウンセリング等の環境を整備する。 ・学生が快適で安全な満足度の高い学生生活が送れるための環境づくりに配慮し、学生の自治組織である学友会活動を支援する。 ・学生自身の自己実現のため、学内外における行事等での依頼による多くのボランティア活動への参加を推進する。 			
P	D	C	A
II 施策			
① 生活支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・こころとからだの支援体制を整える ・快適で安全な学生生活の環境を整える ・学生アンケートや面談の実施 ・保護者への支援体制を整える ・ボランティア活動の紹介と参加人数の把握 ・学生便覧の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月のオリエンテーション時に健康診断を実施。 ・月1回相談日を設定。カウンセラーによる学生相談（こころの相談）および看護師による健康相談（からだの相談）を実施 ・7/18「安全講話」実施。学内教員が宇都宮中央警察署の方より情報をいただき実施。全学生、教員対象 ・4月に在校生、5月に新入生、9月に1～4年生、2月に4年生（卒業生）対象にGoogleフォームで実施。報告書を作成し教員間で情報共有した。学生からの要望へも対応した ・学生面談を年2回実施。6～7月と11～12月。報告書を作成した ・4年生は7月、1～3年生は9月に実施。報告書を作成した ・レク支援ボランティアに参加 ・2月頃から作成開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の終了時間は、昨年より改善された ・カウンセラーによる相談件数延べ「9件」。看護師延べ「7件」 ・看護師による相談は健康診断結果により呼び出した学生のみ。健康状態を把握することができた健康相談を受ける学生数が昨年より減少した ・「安全講話」は問題なく実施できた ・学生アンケートの実施については、シティライフ学部と内容を共有し実施した ・学生生活における健康に関する情報を教員全体で共有できた ・保護者の要望や学生の様子を教員間で共有できた ・学生にとって、良い学びの場となった。 ・問題なく作成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断実施日時の検討 ・相談室の利用促進のための周知徹底 ・学生の要望に対する回答や改善策の伝達方法を検討
② 修学支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションやイベントの企画・運営 ・クリーンキャンパスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・2～4年生：4/1、1年生：4/3～4に実施 ・4/18～19、日光きぬ川ホテル三日月にて「合宿交流研修」実施。1～2年生対象 ・11/16・17「彩音祭」実施。5月から彩音祭実行委員会にて準備開始。 ・環境委員会を中心に7月と1月に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「オリエンテーション」は問題なく実施でき。 ・「合宿交流研修」の事後アンケート（長坂キャンパス全体）で84.2%が「新しい人間関係を構築できた」、92.5%が「研修会は良かった」と回答していた。見学先で女子トイレが混雑した ・「彩音祭」では、エンディングセレモニーをアリーナで実施した。駐車場誘導が大変であった ・全クラス実施できた。清掃用具も問題なかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場誘導の警備員の人数の検討
③ 学友会活動支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・学友会主催イベントの企画・運営支援 ・卒業準備イベントの企画・運営支援 ・委員会およびサークル活動支援 ・大学行事におけるボランティア活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・4/2 新入生歓迎会、9/13 レクリエーション・フェスティバル（1～2年生・教員全員参加）実施 ・2026/3/17 卒業記念祝賀会を実施 ・卒業記念アルバム（1冊14,080円）作成。 ・サークルへ予算配賦（14団体へ総額14万円）。 ・4/2 入学式、6/7、7/12、8/23、9/27 オープンキャンパス、2026/3/17 学位授与式、2026/3/20 春の大学体験講座にてボランティア活動支援実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新入生歓迎会」は問題なく実施できた ・「レクリエーション・フェスティバル」は、天候を考慮しながら、準備や運営を行うことができた。 ・「卒業記念祝賀会」は宇都宮東武ホテルグランデで問題なく実施された ・大学HP内サークル紹介内容は更新されなかった ・年間を通して、全体的にサークルの活動時間が少なくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・シティキャンパス学友会との連携 ・サークル活動活性化へ向けての検討。HPの更新 ・サークル補助費の見直し
④ 卒業生支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会（爽風会）運営支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・11/16 同窓会（爽風会）総会を実施 ・第23号（2026.3）発行予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・総会の出席者が少なかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会イベントの検討 ・同窓会役員の検討

6. 2025年度 子ども生活学部キャンパス・ハラスメント防止・啓発委員会 PDCA報告

I 基本方針

- ・本学キャンパス・ハラスメント防止・啓発宣言及び規定に則り、学生および教員間で認識を共有するとともに、日頃から相互に人権を尊重する土壌を培う。
- ・キャンパス・ハラスメントに対する相談体制を充実するとともに、だれにでも相談できる雰囲気づくりに努める。

P	D	C	A
<h3>II 施策</h3> <p>①人権を尊重した教育の土壌を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員対象のハラスメント防止の研修会を開催する。 ・学生を対象としたハラスメント概念啓発の研修会を開催する。 ・文部科学省配信の動画を9月のオリエンテーションで周知する。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学の教員向けに・FD/SD研修の一環としてキャンパス・ハラスメント防止啓発研修を行った。(11月) ・学生に向けて年2回、オリエンテーション時にキャンパス・ハラスメントについて啓発する研修を行った。 ・宇都宮市男女共同参画センターから講師を招き「デートDV」の授業を実施。(R8.1月) 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員(ためになった100%)・学生対象(理解が深まった97.2%)の啓発事業は事後アンケートの結果から効果があったといえる。 ・身近にあるDVについてについて理解や認識が高まった。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も研修会を企画、実施していく。(シティライフ学部、宇都宮短期大学との共同開催)・年度初めのオリエンテーションで、学生に対する概念説明とともに、研修に相当する内容を盛り込むことを検討する。 ・引き続き、外部講師によるハラスメントに関する学習を進める。
<p>②相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい体制を構築する。 ・組織的な対応を行う 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション時に相談窓口の周知をした。 ・9月時点で、キャンパス・ハラスメント関連の相談は0件。 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談件数0件 ・相談窓口について、学生が認識している。 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の広報と活用を進めていく。
<p>③ハラスメント概念を多面的にとらえた快適な学修環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー・ハラスメントなどへの配慮を行う。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーに配慮した多目的に使用できる更衣室、トイレを設置し、周知した。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的更衣室、トイレの設置は、安心の場所の提供としてよい。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的更衣室の活用を図る。

7. 2025年度 子ども生活学部就職委員会 PDCA報告

I 基本方針			
<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択の多様化に見合ったキャリア教育と早期からの就職支援の充実 ・急激に変化する社会情勢と個々の学生の特性に応じた柔軟で多角的な就職支援の実施 ・学生のニーズと進路選択に応じシティキャンパスとの連携強化と相談支援体制の強化 			
P	D	C	A
II 施策			
①就職ガイダンス等 <ul style="list-style-type: none"> ・1年～4年：ポータルサイト利用の周知就職ガイダンスと進路調査 ・3年：対策講座を適宜実施。NGC 就職（進路）激励会の実施 ・4年：ガイダンス実施と就職活動状況の把握 	① 就職ガイダンス等 <ul style="list-style-type: none"> ・ポータルサイト上での閲覧運用をしている。 ・各学年の就職ガイダンス時にサイト上の就職支援ページの周知及び活用促進を図る ・春学期に進路希望調査（2～4年）を実施 ・就職説明会の時期が早まったため、4年生対象のガイダンスを4月と6月に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ガイダンスについて、クラス担任と連携しスムーズに実施できている ・調査の回答内容で、就活に不安を抱える学生等の把握ができ、就職活動支援の助言に活かした ・激励会は2026年1月に実施予定 ・就職活動方法が多様化しており、個別の対応が増加している 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きクラス担任（4年生は卒研担当）と連携する ・Classroomを活用した連絡の周知徹底
②就職対策講座 <ul style="list-style-type: none"> ・1～2年：長期的視点でのキャリア講座 ・3年：単発と連続講座の組み合わせ実施 ・4年：全体指導と個別フォロー ・保護者のための就職支援講座の実施 	② 就職対策講座 <ul style="list-style-type: none"> ・1年：6月、1月（予定）・2年：7月 ・3年：4、7月 試験対策連続講座9～12月 ・4年：4月 ・保護者のための支援講座：6月 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座出席率は平均すると80%以上である ・保育団体や一般企業の講話、4年生の就職活動体験報告を実施予定である ・保護者支援講座は参加者が少なかったが好評だった 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職サイトの活用や就職エージェントに関する注意事項について繰り返し学生に伝えていく ・講座での学びを活かして就職活動ができるよう引き続き支援していく。
③公務員採用試験対策 <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による対策講座（於UCC） ・公務員（保育士）の模試を実施 	③ 公務員採用試験対策 <ul style="list-style-type: none"> ・1～3年生に対して説明会の参加を促した。 ・公務員（保育士）採用試験模試を4/20に実施し、2～4年生が受験 ・結果および今後の対策について個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員対策講座受講希望者は6名である ・昨年度の公務員講座受講者3名のうち1名合格 ・宇都宮市は4年連続合格となった 	<ul style="list-style-type: none"> ・UCC開催の対策講座に参加できないが、興味を示す学生の掘り起こしと支援継続。 ・公務員講座後のフォローアップ ・模試の有効活用を継続。
④情報収集活動 <ul style="list-style-type: none"> ・栃幼連連絡懇談会等への出席、情報交換 ・進路希望調査の実施 ・個人懇談（クラス委と連携強化） ・実習巡回その他で求人情報を集約 ・キャリアタスUCシステムの有効活用 	④情報収集活動 <ul style="list-style-type: none"> ・栃幼連会議出席等による情報共有ができた ・求人票については、オンラインと紙面との二本立てで行う ・個人懇談の学生の就職関連情報を委員会および個別進路指導管理表で共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア相談室と就職委員で来学した園に対応 ・保育・福祉系はオンライン対応ではないところも多く、紙面や直接訪問への丁寧な対応を継続していく ・クラス担任と卒研担当、就職委員会で情報を共有し、個別の就職支援をおこなった。 ・システムについてガイダンスで周知しているが、有効活用している学生が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの情報収集を積極的にこなっていく。 ・一般企業を希望する学生への早期の就職支援（インターンシップ含む）を行う。 ・求人情報システムの有効活用を継続。
⑤就職相談の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・担任・卒研担当による個別サポートと就職委による面接練習や履歴書指導等 ・新卒応援ハローワーク相談員との連携 ・困難学生への就職支援と家庭との連携 	⑤就職相談の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・4年担任や卒研担当と連携を取りながら、丁寧な対応ができている ・困難学生の個別支援、保護者面談等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク学内相談の有効活用が可能となった。学外のハローワークも積極的に活用している学生が増えた ・資格取得困難等学生の自己理解促進や保護者理解の支援が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も利用を促していく。 ・学内相談への学生のつなぎ等個別のサポートが必要。 ・早めの段階的保護者相談。
⑥就職支援体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・個別進路指導管理表の運用 ・ポートフォリオ活用とUCCとの連携強化 	⑥就職支援体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・シティライフ学部との連携協力 ・ポータルサイト上の情報整備と活用 ・就職支援室との柔軟な連携協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次よりシティライフ学部と連携を図ってきた ・ポータルサイトの活用状況等を把握し、今後にかさず方向で検討 ・就職希望者の内定率100%（内定者の83%が保育職）引き続き支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主実習や、インターンシップなど実習委員会や学生委員会と連携し、学生が満足できる就活を引き続きサポートしていく。

8. 2025年度 子ども生活学部研究・図書委員会 PDCA報告

I 基本方針			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究環境を整備するため、図書館蔵書および図書館機能の一層の充実・整備を図る。特に絵本、紙芝居等の充実に努める。 ・学生の図書館利用を促す。 ・教員の研究・実践活動を支援し、調査研究等を充実させる。 			
P	D	C	A
II 施策			
<p>① 図書館機能および蔵書の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短大との合同図書委員会の実施 ・リクエストの積極的受け入れ ・絵本、紙芝居等の蔵書の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・短大合同の共同図書委員会を実施する（5月、7月、9月、12月、2月）。 ・学生や教員からの購入希望を募集している。 ・新聞/雑誌の検索機能を強化し利用を促している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短大合同の共同図書委員会を予定通り実施した。 ・学生や教員からの購入希望を募集した。 ・新聞/雑誌の検索機能の利用を促した。 	<p>図書館機能および蔵書の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短大との合同図書委員会の実施 ・図書（特に絵本）等の蔵書の充実 ・新聞/雑誌、論文等の検索利用の促進
<p>② 図書館利用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生対象ガイダンスの実施 ・在校生(2~4年生)対象ガイダンスの実施 ・図書館利用ポイントカードの発行 ・図書館かわら版の発行（新着図書の紹介） ・学生による推薦図書紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生を対象に図書館の利用方法と書籍の検索方法等についてのガイダンスを実施する（5月）。 ・3年生を対象に卒業研究を支援するため論文検索、リファレンス機能等について詳細な説明を行う（6月）。 ・図書館利用を促すためにポイントカードを発行する。 ・「図書館かわら版」を毎月、発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に新入生を対象に図書館ガイダンスを実施した（出席率95%） ・6月に3年生を対象にリファレンス機能等についての説明会を実施した（出席率96%）。 ・図書館利用を促すためにポイントカードを発行した。 ・「図書館かわら版」を毎月（4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月）発行した。 	<p>図書館利用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生対象図書館利用ガイダンスの実施 ・在校生対象リファレンス機能ガイダンスの実施 ・図書館利用ポイントカードの発行 ・新刊図書等の紹介（図書館かわら版の発行） ・企画展の実施
<p>③ 研究・実践活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動の支援と関連制度の周知徹底 ・研究倫理研修の実施 ・研究紀要の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要投稿論文の題目募集を実施する（6月募集についての説明を実施、9月末締め切り） ・2026年1月にeラーニングによる研究倫理研修を実施し、2月13日に事後研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文5本の投稿があり、査読の結果、論文3本、研究ノート1本、実践報告1本の掲載が決まった。 ・eラーニングによる研究倫理研修と事後研修を実施し、全専任教員が参加した。 ・研究・実践のための助成金と活動費を獲得（新規1件、継続2件）した。 	<p>研究・実践活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理研修の実施 ・研究紀要の発行 ・科研申請支援の実施

9. 2025年度 子ども生活学部子育て支援研究センター PDCA報告

I 基本方針

地域に開かれた大学として、地域連携・社会貢献の視点から保育・教育・子育て支援分野の「研究」「教育」「実践」活動を行う。

- ・学内での各事業の充実を図ると共に、地域の産学官連携活動の機会等を活かし、地域、社会に積極的に情報発信していく。
- ・各事業についての位置づけを明らかにし、授業での学習と関連させ学生の有効な学習機会としていく。
- ・地域の課題に密着した研究の推進に努め、教員の自主研究、共同研究、受託研究体制を支援していく。

P	D	C	A
II 施策			
① 地域の保育・幼児教育関係者への専門的支援と研究 公開講座とリカレント教育の開催	・シンポジウム（保育施設の実践発表）を11月に実施予定	・開催方法を含め、受講希望者のニーズ把握が必要。	・公開講座とリカレント教育をつなげ、保育の実践につながるよう開催方法を工夫する
② 地域の保護者、保育者、保育を目指す学生への教育と支援 ・地域の就学前施設との交流を取り入れた保育者養成校地を活用した交流保育、訪問型の交流保育 ・親子遊びの会 地域における子育て支援活動の実施	・市内の認定こども園や保育所との交流保育を実施 ・交流保育を高校生が見学 ・7月に学内で活動を実施	・授業や実習での学びを生かした活動を行うことができた。 ・学生が主体となり活動を行うことができた。 ・地域のNPOと協働し、多胎児を対象としたイベントを開催した。	・今後も健康や安全対策を最優先し、活動を継続していく ・地域の団体や子育てサークルとの連携を強化し学生の主体的活動を支援する
・障害のある子どもと家族の支援 障害の有無にかかわらず共に楽しむ機会の提供 彩音祭でのワークショップと展示活動	・短大の学生と共同で7月に学内で活動を実施 ・コンサート、大学祭に向け準備を進めている	・学生が主体となり活動を行うことができた。 ・地域の公共施設でコンサートを実施。	・短大の音楽科と連携し、地域に根差した学生の主体的な活動を支援する
③ 地域の行政や組織との産学官連携活動の推進を支援 ・産学官連携サテライトオフィス事業への参加 ・大学コンソーシアムとちぎ関係への参加 ・栃木県、宇都宮市等との連携事業の推進 とちぎ子どもの未来創造大学 大学地域連携活動支援事業 環境学習センター事業 親子ネイチャーふれあい事業 ・生涯学習支援事業への参加 宇都宮市および那須塩原市の市民大学への講師派遣 ・地域コミュニティ施設等との連携事業の推進 宇都宮共和大学・宇都宮短期大学×ミナテラスとちぎ大学連携親子ワークショップへの参加	CN 推進学生地域活動支援事業 ・予定通り実施 ・予定通り実施 ・那須塩原市市民大学、予定通り実施 ・年間計画通りに実施	・連携講座数を増やし対応。 ・親子を対象とした参加型講座であり、子育て中の保護者が参加した。 ・参加人数を減らすことでスムーズに進行できた。 ・教材研究や活動の成果を子育て家庭に知っていただく機会となった。	・学生の研究の活性化のため、継続的に取り組む ・県や市の連携活動については継続的に取り組む ・市との連携事業が高評価であり、学生の実践発表の機会となっている ・県や市と連携し開催を検討 ・学生の実践を発表する機会であり、短大と連携し、継続的に取り組む
④ 子育て支援研究センター年報（第16号）の発行	・5月発行に向け、掲載内容を検討し、準備中	・HPへの掲載などを行いセンターの活動について発信することができた。	・5月発行に向けて準備を進めていく ・効果的な情報発信方法を模索する
⑤ 学内共同組織との連携強化 ・宇都宮共和大学共同組織運営会議の開催	・年度末に全学の共同組織運営会議を実施予定 シンポジウムの調整や学生提案活動の情報共有を行う	・今年度の各センターの情報を共有している。	・今後も共同運営会議を実施し、センター間の情報共有と連携強化を図る。

2025 年度自己点検・評価報告書

(PDCA報告)

- 大学運営・財務 p. 25

2025年度 大学運営・財務 PDCA報告

I 基本方針			
① 大学運営に関する方針 ・大学の理念・目的の実現に向けて中期経営計画の検証 ・教育研究を安定して遂行するための財務の健全化（予算と実績の管理） ②学生と教職員が居心地の良い環境の整備 ・学生の要望に沿った学内の環境整備 ・事務業務における効率化			
P	D	C	A
II 施策			
① 財務について ・中期計画推移検証と黒字化に向けた方策立案	・中期財務計画と実績の比較 ・黒字化に向けた対策を追加	・那須キャンパス経費を法人に移行する	・経費を法人移行後の収支の検証
② 管理運営について ・ガバナンス・コードに基づく管理と検証 ③ 構内外の情報通信の改善 ・構内無線LAN通信の安定化 ・法人本部との情報通信の整備 ④ 施設と設備の更新等 ・設備の維持と更新 ・構内福利施設の充実	・新たなガバナンス・コードの実態を検証 ・情報保守について新規方法の検討 ・構内無線LANの通信状況を監視 ・会計処理への連動構築 ・教職員のパソコン入替え ・環境美化の維持と推進	・前期点検結果を私立大学協会へ報告した ・情報保守検討会議を進行中 ・運用しながら監視する ・情報共有データ活用する ・Windows11更新と構内機器更新時期を記録する ・汚れ箇所のスポット清掃等を実施した	・新たなガバナンス・コードの検証と報告 ・情報保守の新体制に向けた契約と構築 ・学内体制の整備と保守業者の役割明確化 ・情報保守の学内技術向上 ・更新完了。次期計画立案 ・学内物品の維持管理に向けた具体的な計画
⑤ 学生への経済的な措置について ・奨学金の促進と学費納入期限の柔軟性	・給付型・貸与型奨学金の相談と推進 ・多子世帯向け給付型奨学金の説明と推進	・継続と経済弱者との相談を行った	・学納金納入期日の柔軟性を継続する ・給付・貸与奨学金の積極的関与
⑥ 事務の業務改善と効率化について ・業務見直しと人員配置の見直し ・電子申請の推進（ペーパーレス） ・キャンパス間の連携	・適材適所の配置と将来への教育強化 ・研究費等の申請の電子化の推進 ・共有ファイルの活用と物品の相互利用	・若手職員を採用した ・職員の業務変換と配置転換をした ・研究費等電子申請の説明を行った ・書類の統一と共有の拡充をした	・教職員の若返り転換 ・将来的な人事配置の実施 ・研究費電子申請の新たな検討と立案 ・那須キャンパスとの区分けを行う
⑦ アドミッションセンターの活動充実 ・入学者確保のための強化策の検討 ・大短連携体制の強化 ・入試制度等の見直しについて ・アドミッション・ポリシーの改定 ・入学時納入金に係る学生の負担軽減等について	・併願受験の見直し ・両学部入試・広報委員会と改定案を作成 ・入学辞退者への納入金返金の新たな方法を検討	・総合型選抜で併願受験を可能とした ・新しいアドミッション・ポリシーを作成提案した ・入学辞退者には事務手数料（50,000円）を除いた残額をすべて返金する	・シティライフ学部で総合型選抜併願受験が2名出て出願者が前年比58%増となった ・次年度より各媒体にて公開する ・他大学の動向を見ながら制度導入を引き続き検討する